

さぎの湯温泉  
国民保養温泉地計画書

平成 28 年 6 月  
環 境 省

- 目 次 -

1 . 温泉地の概要.....	1
2 . 計画の基本方針.....	1
3 . 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策.....	2
4 . 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画 又は入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等.....	3
5 . 温泉資源の保護に関する取組方針.....	3
6 . 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策.....	4
7 . 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策.....	6
8 . 高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりに関する計画.....	8
9 . 災害防止対策に係る計画及び措置.....	10

添付

- 1 . 国民保養温泉地位置図
- 2 . 国民保養温泉地区域図

## 1. 温泉地の概要

安来市古川町にあるさぎの湯温泉は、<sup>やすぎ</sup>中海・宍道湖・大山を包括する山陰観光文化圏の中央に位置する温泉地である。月山の麓を流れる清流・飯梨川のほとりにあり、山陰地方の著名な温泉地に比べ規模が小さく（浴用利用施設6施設）大規模な開発が進まなかったため、現在も懐かしさが感じられる農村の田園風景に囲まれている。

さぎの湯温泉は、神亀年間（724～729年）に湧き出した湯で、白鷺が脚の傷を癒したのが温泉の起こりと伝えられている。古くは戦国時代の尼子氏をはじめ、歴代藩主の御殿湯として栄えたことでも知られている。その後、度重なる飯梨川等の洪水によって泉脈を失ったが、明治43年に田辺六左衛門が手がけた排水工事にとともに、泉源が再発見され、現在のさぎの湯温泉が形成された。

その後も、昭和34年8月の集中豪雨による水害等に苦しんできたが、上流部へのダム建設や河川工事によって、洪水被害を防ぐことができるようになった。平成7年には永久泉源を整備し、源泉かけ流しの豊富な湯量を確保することになった。

さぎの湯温泉の湯量は豊富で、無色透明のさらっとした肌ざわりの湯が特徴になっている。温泉旅館では、それぞれ趣の異なる風呂で源泉かけ流しの温泉が楽しめるほか、健康増進施設「夢ランドしらさぎ」では、温泉風呂のほかに水着で入れるバーデスパ、ミニプール、トレーニングルームなどが完備されている。

近隣には、田園風景を囲む数百メートルの山々を借景にした日本庭園として、世界的な評価を得ている足立美術館がある。年間60万人近くの観光客が訪れ、外国人観光客の来訪も多い。また、安来節演芸館や安来節屋では、安来市固有の民謡・安来節やどじょうすくい踊りを気軽に楽しむことができる。

## 2. 計画の基本方針

さぎの湯温泉のある地域は、県内有数の観光地となっている。隣接する足立美術館や安来節演芸館をはじめ、3キロ内の距離に月山富田城跡及び城下町広瀬が存在するなど、温泉を含めた一体的な観光地を形成している。

同温泉は、豊富な湯量や源泉かけ流しの魅力とともに、周辺地域の歴史ロマンあふれる資源や豊かな自然環境、田園風景のなかに懐かしさが感じられる落ち着いた温泉地の風情が、多くのお客さまに支持されている。客層は中高齢者が中心で、観光シーズン等の混雑時を避けて、温泉地でゆっくりと過ごす個人客の利用が多い。

当温泉地には、小規模な温泉地でありながらさまざまな客層に対応できる施設が立地しているほか、周辺地域を含めて魅力ある自然環境、歴史、文化が豊富に維持・保全されている。この特徴を活かして、今後は外国人観光客を含む多様なお客さまが、温泉地を拠点に数日間滞在し、目的や嗜好に応じて自然・歴史・文化・食・健康づくり等を楽しんでもらえる滞在・体験型の健康保養地としての温泉地を目指す。

このため、温泉と周辺地域の自然環境、歴史、文化等の資源を一体的に捉え、心と体の健康増進をテーマとした体験やアクティビティの充実や観光素材の開発に取り組む。さらに、温泉地内を歩いて楽しめる景観づくりや土産物・グッズの

開発・販売等によって、隣接する足立美術館を訪れる観光客へのアプローチ強化、各施設での外国人観光客向けの案内や食事等への対応強化を図り、幅広いお客さまに親しまれる温泉地を目指す。

### 3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策

#### (1) 自然景観、まちなみ、歴史、風土、文化等の概要

さぎの湯温泉は、清水月山県立自然公園内にあり、名峰大山とこれに連なる中国山脈を背景に、豊富な水量を誇る1級河川・飯梨川のほとりに位置している。さぎの湯温泉周辺は、山並みや水田等で構成される穏やかな田園風景が広がり、高層建築や電子看板等もないことから、温泉地の情緒ある風景や景観が保たれている。

同公園は、数多くの史跡とそれを取り囲む自然環境とが一体となった自然公園であり、さぎの湯温泉地区は、天台宗の名刹清水寺を中心とする清水地区と、国史跡富田城跡を中心とする月山地区とを結ぶ中間にある。

月山富田城は、16世紀に最盛期を迎えた尼子氏の居城であり、さぎの湯温泉は、歴代藩主の御殿湯として栄えたことでも知られている。山中鹿介の物語で知られ、NHK大河ドラマの舞台となったほか、随所に残る石垣や石畳の石道が当時の面影を伝えている。城下町広瀬に伝承される広瀬紺、広瀬和紙、窯元、たたら操業の流れをくむ鍛冶工芸といった伝統工芸もふくめて、歴史ロマンあふれる資源が豊富である。

清水寺は、スギや常緑広葉樹の天然林に囲まれた清水山の中腹に位置し、境内には重要文化財の根本堂を中心とした大伽藍や、県下唯一の三重塔が残っており、深山幽谷的な趣をもつ。眺望もよく、四季折々の景色を楽しむことができる。

#### (2) 取組の現状

さぎの湯温泉地区は、清水月山県立自然公園内にあり、鳥根県立自然公園条例に基づき、公園内の自然環境が保たれている。

安来市では、民謡・安来節や価値ある遺跡、史跡、まつり、社寺、庭園をはじめ、優れた有形・無形の文化財を維持・保存しつつ、滞在・体験型観光（安来節、染物、紙漉き、陶芸、農業など）や美しい田園景観、雄大な眺望を活かした散歩・サイクリングコースの整備等、自然と農村文化にふれるグリーンツーリズムを推進している。

さぎの湯温泉地区では、さぎの湯観光協会 さぎの湯根っこの会の団体が存在する。とくに、については地域住民、旅館経営者等で組織されている団体であり、「田園の中に湯けむり情緒あふれる温泉と歴史ロマンを体感できる街づくり」を目標に掲げ、美化活動や四季折々に楽しめる花壇等の設置による魅力ある温泉地づくり、伝統文化の香る温泉地づくりのパンフレット作成に取り組んできた。

#### (3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉においては、現在の温泉地の情緒ある風景や景観を大切にし、自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等を図るため、県・地元と調整の上、

現状の取組を継続する。

また、滞在・体験型の健康保養地としての温泉地を目指す上で、これらの貴重な資源の魅力や楽しみ方、味わい方を来訪者や地域内外へ伝え、温泉とともに地域をまるごと楽しみ、親しんでもらう取り組みを通じて、維持・保全につなげていく。

#### 4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画又は入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等

##### (1) 医師又は人材の配置の状況

さぎの湯温泉では、現在、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う医師を配置していない。また、入浴方法の指導を行う人材もいない。

今後、(2)に記載する医師及び人材の配置・育成に取り組む。

##### (2) 配置計画又は育成方針等

さぎの湯温泉では、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う医師及び入浴方法等の指導を行う人材を配置することにしており、その計画及び育成方針は、以下のとおりである。

医師			
氏名	専門分野	活動内容	配置予定年度
安来市立病院 医師	内科	・定期的に、旅館経営者及び温泉施設職員を対象に、医師等を招いて温泉利用に関する講習会を実施。 ・安来市立病院において、温泉利用に関する相談ができる体制の構築。	H28年度

##### 入浴方法等の指導を行う人材

資格	活動内容	配置予定年度	育成方針
温泉入浴 指導員	・温泉利用の安全かつ適切な実践指導を行う。 ・生活指導、安全管理、救急処置を行う。	平成32年 まで	5年以内に2人、最終的に全ての施設(4施設)で1人ずつ配置予定。

#### 5. 温泉資源の保護に関する取組方針

##### (1) 温泉資源の状況

さぎの湯温泉は、以前は複数の泉源から集めた温泉を利用していたが、低温かつ湯量が不安定であった。また、地下の土質についても砂地であるため泉源が埋まる危険性があった。このため、平成7年に新泉源を掘削(深度1,000m)し、高温かつ安定的な湯量確保が可能となった。泉質は、低張性弱アルカリ性高温泉の療養泉であり、

温泉利用者一人あたり 1.44 リットル/分以上（添付 4「温泉地全体の湧出量に関する計算書」参照）の豊富な湧出量がある。

源泉	温度 ( )	湧出量 (l/min)	泉質	湧出状況	所有者	利用施設
鷺の湯温泉	53.8	1300	ナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩泉	動力揚湯	安来市	旅館 3 健康増進施設 1 介護予防施設 1 介護施設 1

上記数値等は別添 3「温泉分析書（平成 27 年 8 月）」による。なお、「湧出量」は平成 24 年のデータによる

## （２）取組の現状

さぎの湯温泉における源泉について、現在講じているその保護に関する取組の状況は、以下のとおりである。

源泉	取組	実施主体
鷺の湯温泉	年 2 回：送湯ポンプ及び配湯設備の定期点検（水圧・温度等を計測し記録している） 年 1 回：泉源ポンプ交換	安来市

## （３）今後の取組方策

さぎの湯温泉源泉においては、現在のところ温泉湧出量は豊富であるが、これを将来にわたって維持するため、上記（２）の取組を継続して行う。また、定期的な電量把握（＝揚湯ポンプ）を行い揚湯量に異常がないか等を確認していく。

泉源周辺部においては、温泉利用者及び地元住民とともに、温泉地が一体となって温泉資源の保護を推進していく。

## 6．温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策

### （１）温泉の利用に当たっての関係設備等の状況

さぎの湯温泉において温泉の利用にあたって使用している設備及び温泉利用の状況は、以下のとおりである。

温泉地	源泉数	浴用利用施設までの設備	浴用利用施設数
さぎの湯温泉	1	貯湯槽・引湯管	6

### （２）取組の現状

さぎの湯温泉において温泉の利用に当たって使用している設備について、現在講じている衛生面での取組の状況は、以下のとおりである。

設備	区分	取組	実施主体
源泉	自主的	地下水等が混入しないように遮水対策を施工。	安来市
引湯管	自主的	1. パルプ、ドレン等の点検を必要に応じて実施。	安来市
貯湯槽 送湯ポンプ	自主的	2. 1年に2回、設備を定期点検。 3. おおむね5年毎に洗浄工事を実施。	安来市
送湯管	自主的	4. おおむね10年毎に洗浄工事を実施。	安来市
浴槽	県条例	5. かけ流しで新鮮な温泉水を随時入れている。 6. 浴槽水は、毎日換水して浴槽を清掃している。 7. 浴槽を1週間に1回、清掃。 8. 塩素系薬剤による消毒。 9. 水質検査を年1回実施。	旅館 (3施設)  介護施設 (1施設)
		10. 【循環ろ過装置設置施設】 ・各循環式浴槽に塩素系薬剤による消毒液を常時注入し、濃度管理を適正に行う。 ・全浴槽水の週1回の清掃、換水。 ・かけ流し浴槽水の毎日清掃・換水。 11. ・年2回の全浴槽水の水質検査を実施。	健康増進施設 (1施設)  介護予防施設 (1施設)
周辺設備	自主的	源泉周辺の草刈りを年2回実施。	さぎの湯観光協会

### (3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉において、今後も温泉を衛生的に良好に保つため、島根県の指導の下(2)の取組を継続して行う。また、各施設においては、温泉に関する衛生面の啓蒙に務めるため、従業員向け研修会の開催、他団体が実施する講習会への参加等、取組の強化を図っていく。

とくに、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理については、4.(2)の機関及び島根県と連携を取りながら推進していくこととする。

## 7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策

### (1) 温泉の公共的利用の状況

さぎの湯温泉の利用客数は、年間約 30 万人である。平成 25 年度には、島根県を代表する観光地・出雲大社における「平成の大遷宮」や山陰と山陽を結ぶ中国横断自動車道・尾道松江線（愛称：中国やまなみ街道）の全線開通等の効果もあり、前年から 3.5 万人増加した。

近年のさぎの湯温泉における温泉利用の状況は、以下のとおりである。

過去 3 年間の温泉の利用者数

（単位：人）

区分	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
宿泊	16,611	21,361	18,311
日帰	276,652	307,787	291,930
合計	293,263	329,148	310,241

直近 1 年間（平成 26 年度）の温泉の利用者数

（単位：人）

温泉地	区分	施設数	総定員	利用者数							
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月			
さぎの湯温泉	宿泊	4	203	1,420	1,949	1,191	1,344	2,275			
	日帰	2	-	23,732	25,345	21,984	22,933	26,826			
	合計	6	203	25,152	27,294	23,175	24,277	29,101			
				利用者数							
				9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
				1,447	1,840	2,166	1,382	1,025	756	1,516	18,311
				22,633	22,938	25,982	25,327	25,906	22,008	26,316	291,930
				24,080	24,778	28,148	26,709	26,931	22,764	27,832	310,241

健康増進施設は宿泊と日帰りで計上

### (2) 取組の現状

さぎの湯温泉において、温泉の公共的利用の増進を図るため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである。

温泉地	取組	実施主体
さぎの湯温泉	<b>さぎの湯温泉の情緒ある風景づくり</b> 温泉地の美化活動として、毎年実施されている地域の清掃活動に参加。	さぎの湯温泉 根っこの会
	<b>「田舎のお福分け」さぎの湯温泉産直市</b> (平成26年度までに6回開催) 年1回、温泉地内で地元の特産品、工芸品、お菓子等を直売。試食・販売のほか仮設足湯、職人によるミニ体験等のイベント、温泉無料券の特別配布等を実施。	さぎの湯温泉 根っこの会
	<b>さぎの湯スイーツの開発</b> 地元農産物を使ったスイーツとして、地元のぶどう園と連携してオリジナル商品「ぶどうアイス」を開発。「田舎のお福分け」にて試食・販売を実施。	さぎの湯温泉 根っこの会
	<b>白鷺治癒伝説にちなんだコスメグッズの開発</b> 温泉と美肌のイメージを活かしたコスメグッズとして、和紙に鉱石を漉き込んだ美装紙の温泉地オリジナルパッケージを開発し、各施設で販売。	さぎの湯温泉 根っこの会
	<b>歴史ロマン散策コース・サイクリングコースの開発</b> さぎの湯温泉周辺を含む安来市の歴史ロマンを体感できる散策コースやサイクリングコースを設定し、観光協会がロードマップを作成。	安来市観光協会
	<b>さぎの湯温泉レンタサイクル</b> さぎの湯温泉地内の旅館等において自転車の貸し出しを実施。旅館でレンタサイクルを組み込んだ宿泊プランを開発。	旅館(3施設) ほか
	<b>外国人観光客向け体験型商品の開発</b> 周辺施設と連携して、外国人向けの体験型商品を造成し、外国人向けの体験パンフレットを作成。	さぎの湯温泉 根っこの会
	<b>「安来お坊さんカフェ」</b> 新たな観光素材として市内の若手僧侶の協力を得て企画。フェイスブックで参加者を募り、座禅のほか悩み相談や仏教・寺院への質問に答えるカフェを実施。参加層は県内外の30、40代の女性を中心。	さぎの湯温泉 根っこの会

### (3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉において、さらに温泉の公共的利用の増進を図るため、温泉地の魅力のひとつでもある豊富な自然環境、歴史、文化等の維持・保全に努めながら、滞在型の健康保養地としての温泉地を目指すため、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

展開にあたっては、「第2次安来市総合計画(平成27年度策定)」、「安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成27年度策定)」、及び「安来市観光振興プラ

ン（平成 25 年度策定）」との関連性に留意し、また、行政や安来市観光協会とも連携しながら、各取り組みを実施していくものとする。

温泉地	取 組	実施主体
さぎの湯温泉	<b>体験・アクティビティのプログラム開発</b> 食：精進料理、マクロビオティック（薬膳料理）、地元食材 心：座禅、月山史跡めぐり 体：ウォーキング、サイクリング 地域の恵まれた素材を活用し、様々な分野で滞在者に提供していく。	さぎの湯温泉 根っこの会  安来市観光協会
	<b>プチ湯治プランの開発</b> 長期滞在プラン 温泉利用講座、プログラム提供 湯治的滞在（連泊）を基本に、滞在者の幅広いニーズに対応できるよう体験メニューのプログラム化を行う。	さぎの湯温泉 根っこの会  安来市観光協会
	<b>外国人観光客への対応強化</b> 案内・接客における外国語対応の充実 外国人の食文化・食習慣への対応の充実 増加傾向にある外国人宿泊者の受入れ対策を充実させていくとともに、近隣の観光素材と一体となったプロモーションを実施していく。	さぎの湯温泉 根っこの会
	<b>温泉地内の景観整備</b> 歩いて楽しめる景観づくり 足湯・手湯、一坪ミュージアム 植栽 さぎの湯公園の整備 当地区は、県立自然公園内にあり公園内の自然環境が保たれている。また、周辺には美しい田園景観、雄大な眺望が残っている。これらを活かした温泉地づくりを進める。	さぎの湯温泉 根っこの会  安来市
	<b>温泉地内の飲食・物販サービスの充実</b> 土産物・グッズ開発 旅館の軒先カフェ、テイクアウトの充実 創業スペース、チャレンジショップ貸出 魅力ある温泉地づくりかつ話題づくりの目的で、滞在者が楽しむことが出来る素材づくりを行っていく。	さぎの湯温泉 根っこの会

## 8 . 高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりに関する計画

### ( 1 ) 公共の用に供する施設の状況

さぎの湯温泉における公共の用に供する施設の状況は、以下のとおりである。

温泉地	区分	施設
さぎの湯温泉	公有施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路（県道 45 号安来木次線）</li> <li>・遊歩道</li> <li>・さぎの湯公園</li> <li>・公民館</li> <li>・交通（福祉バス）</li> </ul>
	公有施設 （指定管理）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進施設（1 施設）</li> <li>・介護予防施設（1 施設）</li> </ul>
	私有施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅館（3 施設）</li> <li>・介護施設（1 施設）</li> <li>・共同浴場</li> </ul>

## （２）取組の現状

さぎの湯温泉において、高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりのため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
さぎの湯温泉	公有施設	道路	安全対策として歩道部分のカラー舗装	安来市
		建築物	障がい者や高齢者・乳幼児等を持つ家族等の利便性を考慮したバリアフリー化を実施 【健康増進・介護予防施設】 ・身障者向けトイレ完備 ・車いす使用者受け入れ及び車いす貸出	安来市
		交通	福祉バス（運賃無料のシャトルバス）の運行	安来市
		その他	【健康増進施設】 ・身障者手帳持参者への割引実施	
	私有施設	建築物	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者</li> <li>【旅館】</li> <li>・食事提供時にテーブル・椅子等の選択可能</li> <li>・部屋割は1階を優先</li> <li>・浴場に手すり設置</li> </ul>	施設所有者

			障がい者 <b>【旅館】</b> ・館内用車いすの配置 ・スタッフによる移動の際の介助 ・トイレを洋式便座に変更 ・簡易ベッドを準備 <b>【介護施設】</b> ・バリアフリー化 ・車いす使用可能  外国人観光客 <b>【旅館】</b> ・案内に外国語表記追加 ・Wi-Fi 設備設置 ・ベジタリアン等・ハラール認証食対応	
--	--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

### (3) 今後の取組方策

さぎの湯温泉において、さらに高齢者、障がい者等に配慮したまちづくりを推進するため、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え以下の取組を進める。

温泉地	区分	施設	取組	実施主体
さぎの湯温泉	公有施設	道路	ユニバーサルデザインの考え方のもと整備していく。 サインについては、「やすぎ観光案内サインガイドライン」に基づき整備していく。	安来市
		建築物		
	私有施設	建築物	障がい者 <b>【旅館】</b> ・多目的トイレの設置 ・手すりなどの補助器具設置 ・段差を減らす  外国人観光客 <b>【旅館】</b> ・食事のお品書きの英語表記 ・自社HPを外国人対応にリニューアル ・スタッフの語学力のアップ	施設所有者

## 9. 災害防止対策に係る計画及び措置

### (1) 温泉地の地勢及び災害の発生状況

さぎの湯温泉は、1級河川である斐伊川水系飯梨川の傍にある。島根県は、昭和34年8月の集中豪雨による水害を契機に、飯梨川の洪水の調整、工業用水及び水道水の供給、並びに発電所建設による電力供給を目的としてダムを建設し、支流の山佐川にもダムを建設した。これにより飯梨川沿線全域にわたり洪水被害を防ぐことができるようになった。

## (2) 計画及び措置の現状

さぎの湯温泉において、現在、災害防止に関し策定している計画及び講じられている措置は、以下のとおりである。

温泉地	計画又は措置	計画又は措置の概要
さぎの湯温泉	島根県水防計画	水防法に基づき斐伊川水系飯梨川浸水想定区域の指定(平成18年県告示第554号)。 実施区間：左岸、安来市広瀬町から安来市赤江町まで(旅館3施設が該当)
	安来市水防計画	水防法並びに島根県水防計画に基づき策定。水防業務の調整・円滑な実施のため必要な事項を規定。 重点水防区域：安来市広瀬町から安来市赤江町まで(飯梨川左岸) 危険な箇所：古川町(飯梨川左岸) (いずれも旅館3施設が該当) (健康増進施設及び介護予防施設が避難所開設施設に指定されている)
	安来市地域防災計画	災害対策基本法に基づき市長が策定。区域ごとに警戒避難体制に関する事項を規定。 ・市民防災マップ作成(健康増進施設及び介護予防施設が避難所に指定されている)
	原子力災害に備えた安来市広域避難計画	安来市地域防災計画(原子力災害対策編)に基づき策定。国指針と島根県広域避難計画との整合を図り、広域避難体制を整備。 広域非難計画の対象地域(島根原子力発電所から30km圏以内)：飯梨地区(古川町を含み、さぎの湯温泉全体が該当)
	どじょっこ Wi-Fi 接続サービス	安来市が災害発生時における指定避難所開設時に発信する災害情報の確認等を行うため開設。(健康増進施

		設に受信システム整備)
	告知端末	上記に併せ市内各事業所に設置
	自主防災	温泉地内の各施設で避難訓練を実施。

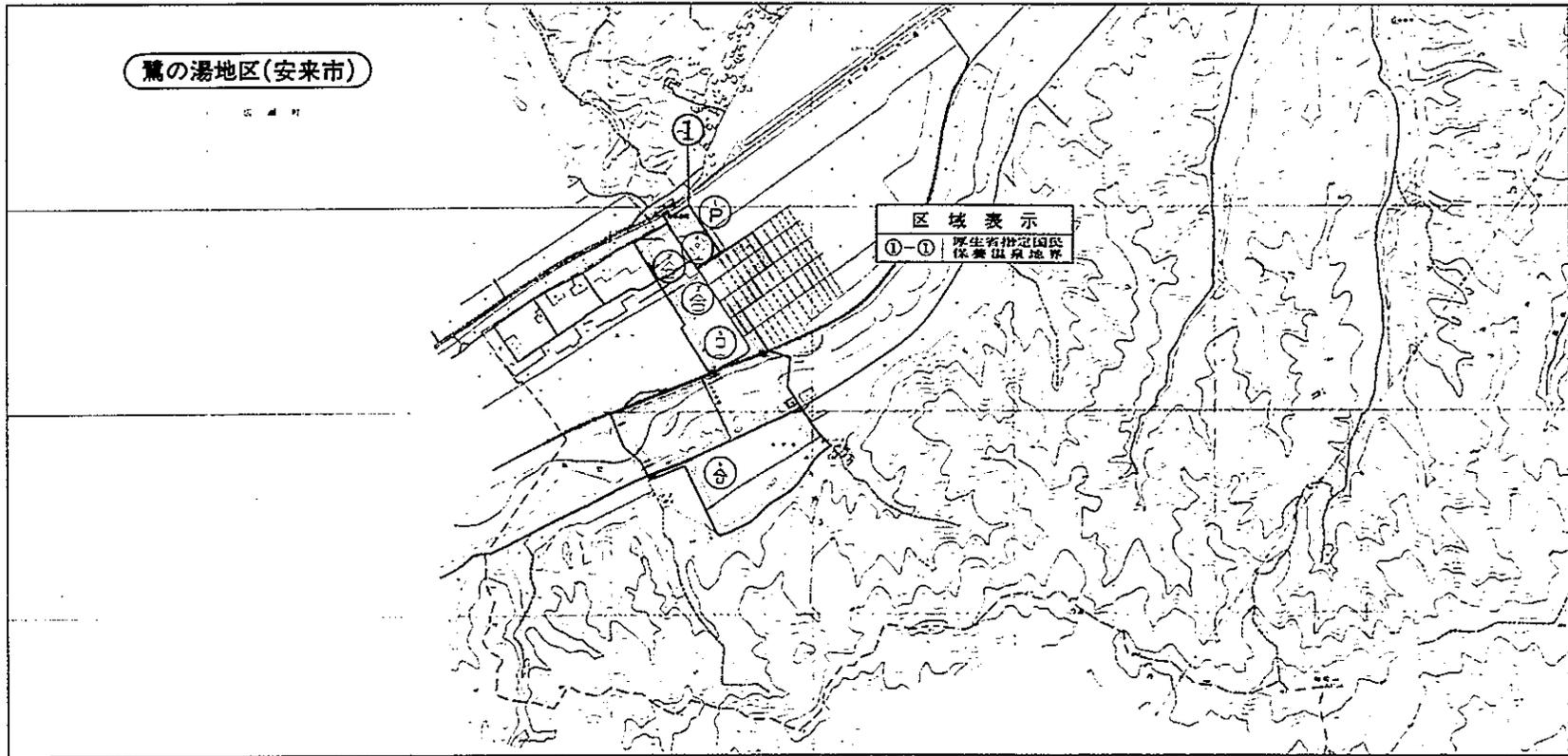
### (3) 今後の取組方策

災害発生時には、さぎの湯温泉では観光客が多数存在するという特異な地域である。このため迅速な情報収集と行動がより一層不可欠であり、各種計画に新たな項目を設けるよう働きかけていく。

また、さぎの湯温泉において、災害の防止を図るため、(2)の計画及び措置に基づく取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

源泉	取組	実施主体
さぎの湯温泉	各施設で市民防災マップや避難場所、災害情報を受信できる Wi-Fi 接続等の情報を館内に掲示するなど、防災情報を提供する。	各施設所有者
	各施設での防災訓練のほか、地域の防災訓練との同時実施や、各施設の合同避難訓練を実施する。	さぎの湯温泉 根っこの会

# 清水月山県立自然公園



1-1. 国民保養温泉地位置図

1-2. さぎの湯温泉施設配置図 (概要)

